

貝殻技術の進化

～内水面での取り組み事例～

主に海域で魚介類の餌場・隠れ場として活躍してきた貝殻技術ですが、近年ウナギやテナガエビを増やす取り組みとして、内水面でも活用の方が広がってきました。

○ウナギ増殖の事例（島根県 中海）

島根県の中海では、貝殻と塩ビパイプ等を組み合わせた貝藻くんが、ウナギ保護礁として設置されています。引き揚げ調査では、中からウナギの幼魚や、ウナギのエサになるエビ類が多く出現し、今後、資源保護・増大に貢献してくれることが期待されます。



貝藻くん（ウナギ保護礁）



設置状況



小さなウナギの…

エサを増やす！ 隠れ場をつくる！

引き揚げ調査では…



増殖効果を確認！



ウナギのエサ生物！



ウナギの稚魚！

○テナガエビ増殖の事例（岡山県 児島湖）

岡山県の児島湖では、水質浄化とテナガエビ増殖を目的として貝殻基質ユニットが設置されています。貝殻基質には、周囲の湖底と比べて多くのテナガエビが生息・保護されていました。これらが漁獲されることや、その他動物にエサとして利用されることで、物質循環の促進による水質浄化効果も期待されます。



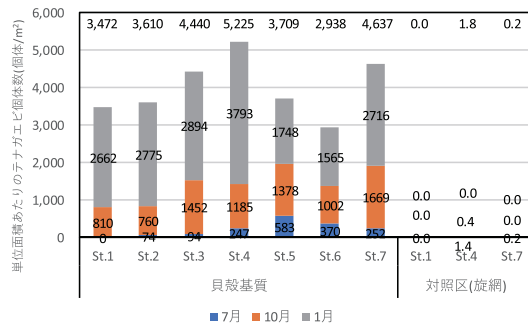
貝殻基質ユニット
（上段：カキ殻、
中・下段：ホタテガイ殻）



引き揚げ調査
抱卵個体も



ウナギもいたヨ♪



周囲の湖底（対照区）と比べ
貝殻基質には多数のテナガエビが生息

出典：平成30年度 日本沿岸域学会研究討論会（第31回）
「貝殻基質によるテナガエビの増殖効果の検証」